

親がもっと子どもたちと時間を過ごせるように、家事を分担することが父親としての役割だと思っている人もいます。しかし、聖書は、神の人格を目指す家庭において父親には7つの働きがあると、それぞれの働きは、ホームスクーリングにおいて非常に実践的、かつ力強く適用できます。「父親は何をするのか？」という質問に対する回答を、リックが知恵とユーモアで提供します。

ジョイス・イノウエ抄録

基調講演

「子どもたちそれぞれのニーズに応えるために」

あなたが何人かをホームスクーリングしているとしても、たった一人だとしても、一番合った学び方を見つけ、教えていくことは、子どもたちの学びを楽しくさせ、達成感と成功感を与えます。どうすれば親はすぐそれぞれに適した学び方を発見することができるでしょうか。どうやってホームスクールの教材を用いつつ学び方を教えることができるでしょうか？ホームスクーリングという環境で、それぞれの必要にどうやって応えていけるでしょうか。

分科会

「子どもたちの賜物、長所と短所認識への一般テストの誤り&勧めたい親の観察方法」

子どもたちの能力を正しく知るために、ぜひこのセミナーに来てください。長年にわたり、一般テストには多くの間違いと不正確さがあることを体験してきました。なぜ一般テストと言われるものが間違っているのか、お話ししたいと思います。多くの時間やお金を使うことなく、学習障害に正しく気付くために、子どもに対しての観察方法を親の皆様が訓練します。

「子どもたちを祝福する方法」

過去5年間、チアの皆さんに言葉の力について分かち合ってきました。聖書には、人の口から出る言葉は、生かすものでもあり、殺すものでもあるということが書かれています。多くの家族が「子

どもたちを祝福する祈り”を行い、家族が変えられた劇的な変化を証しています。もしあなたがあなたの心を子どもたちに向け直すならば、子どもたちの心もあなたに戻ってくる（マラキ4:6）。もしあなたがあなたの言葉を変えるならば、彼らは時にかない、恵みで満ち、あなたの徳を高めるような存在になるのです。子どもたちを傷つけるのではなく、祝福することを選び、ぜひこのセミナーに来てください。

「子どもたちへの祝福に推進力を与えるために」

私たちは言葉の力を知り、どのようにして子どもを祝福するか学んできました。しかし私たちが忙しい時、疲れ果てている時、怒りがこみあげてくるような状況の時はどうでしょうか。一日がとてつもなく忙しく、短く、そして子どもがたくさんいる状況の中で、どのように子どもたちを祝福し続けることができるでしょうか。これが可能であり、なぜこれが他のどんなレッスンよりも重要であるかを分かち合います。

「子どもたちが学習障害と思った時の十の戒め」

このセミナーで、あなたの子どもたちへの見方が変えられるでしょう。命を与え、人生を変えるようなものとなるでしょう。あなたがどのように子どもたちを見るかは、子どもたちとの関係や子どもたちの自尊心に大いに影響を及ぼします。

「ChildDの質疑応答タイム」

学習、ふるまい、障害、独特な問題、あらゆる分野での質問を持ってぜひ集まってください。その全ての時間を使って質問に答えていきます。質問箱を事前に設置する予定ですのでご利用ください。

分科会 各講師 抄録

■「GrapeSEED & ホームスクールならなれます、バイリンガル！」 伊澤 聡一郎& 恵美

7年前、HS開始と同時に GrapeSEED を始めたわが家。最初の数年は何度も挫折しかけてましたが、

試行錯誤しながら継続する中で、16歳～6歳の4人の子どもたちが英語を話し、映画やペーパーバックを英語で楽しむ姿は当たり前となりました。まさかこんな日が来るとは想像すらしていませんでしたが、今は、ホームスクールで取り組み、親が英語を話さなくても子どもはバイリンガルになれると思っています。GrapeSEEDの利用方法（完璧主義にならず細く長く）や、一緒に続けてきた多読多聴等、具体的な取り組みをご紹介します。イギリス人講師によるCSSの英会話・英作文クラスでも、CSS生のホームスクールでのGrapeSEED&英語多読の取り組みの効果ができています。（2017年の分科会のアップデート版です。）

■「次世代に伝えるべき命と性」 伊藤 こそえ

神様は私たちに命を与え、「生めよ。ふえよ。地を満たせ。創世記1:28」と創造の初めから祝福してくださっています。大人の私たちは、神様の愛と祝福を受け取っている者として、家庭で、教会で、地域で、この命と性の大切さを次世代にきちんと伝えることができているのでしょうか。世の中に氾濫している歪んだ性情報によって、私たちの性に対する意識も知らず知らずの内に歪ませられ、どのように伝えていったらよいのか困惑しているのではないのでしょうか。聖書に基づく命の教育、若者たちを取り巻く現状、具体的にどのようにアプローチしていったら良いのか等、助産師としての臨床の現場からも一緒に考えていけたらと思っています。年齢差のある高校生、中学生、小学生三人との日常も少し分かち合えたらと思います。

■「チャーチ&ホームスクーリング -必ず聞かれる20の質問」 稲葉 寛夫

「チャーチ&ホームスクーリングって何？」そんな質問への答えから始めて、全体像をつかめるセッション。スタート済みの皆さんには、知人・友人へのプレゼンテーションへの参考に。「社会性は？」「微分、積分ができなくても教えられる？」「聖

書が教える教育法は？」「しつけは？」「大学進学、就職は？」「ホームスクーリング・マインドのチャーチスクールって？」「週2時間からできるC&Hって？」。この18年の全国各地でのセミナーで多かったQ&Aをベースに8時間コースを50分に短縮した、一度は必修のコース！

■「我が家の子育ての歩み」 今井 一穂&真理子

独身時代からホームスクールに興味を持つ夫・一穂と、ホームスクールに全く関心が無かった妻・真理子。そんな私たちがどのようにホームスクールに導かれたのか、また小学校への対応や、祖父母の反応、現在の様子などを共有させていただきます。

■「場違いな化石」 宇佐神 実

海で堆積した地層から陸上を歩いていた恐竜の化石が発見されることがあります。北海道のむかわ町で発見されたむかわ竜の化石もその一つです。進化論者にとっては不思議なことですが、ノアの大洪水があったことを考えるなら、そのような場所で陸上の生物の化石が発見されるのは当然のことです。子どもに教える時、地層や化石について、聖書の視点から考え始めることの大切さを学びます。

■「創造を信じることはなぜ大切なのか？」 宇佐神 実

人が何を信じるかで、その人の世界観が形作られ、人はその世界観に基づいて考えたり行動したりします。聖書通りの創造を信じることは、自分の存在価値を明確にします。そしてなぜ人は悲しみや苦しみを経験するのか、なぜ人は死ななければならないのか、なぜ救いが必要なのかの根拠がはっきりするのです。創造が分からないとこれらの根拠がなくなってしまうのです。子どもたちに創造を伝えるために共に学びましょう。

■「十字架を目指して低きにのぼる2」 鍵谷 徹也&陽子

19歳の長男、7歳の長女、4歳の男の子(里子)を養育中。何よりも、神の国とその義を…と、始めたHS。多くのものを捨ててきたのに、何倍にもなって返ってきた恵みは数知れず。ほぼ聖書の学びと伝道だけで育った長男は、法を通した働きへと導かれ、肉体に弱さのある長女には、励ましと訓練の機会が与えられ、絶望的だった里子くんとの関係作りには、微かな光が。選択肢になかった道が開かれるたび、戸惑い、信仰が試されるけれど、本当のゴールは一つだけ。子どもたちや自分達の足りなさに目を留めず、赦し、完成させて下さる主をこそ仰ぎ見て、砕かれ、感謝しつつ歩む日々をお分かちします。

■「幼児期こそホームスクーリング！」

菅野 律哉&幸

時には葛藤や試練がありつつも、私たちはホームスクールこそ子どもにとっての最大の祝福であると確信させられています。ホームスクールを始めたきっかけは？何から始める？幼い弟・妹がいても大丈夫？父親の仕事が忙しくても大丈夫？とても続けられないと感じた時どうする？といった疑問(全て私たちが感じてきた疑問です)から、家庭における父親と母親の役割、子どもの個性に合わせた育て方、そしてすでに子ども達に芽生え始めている良き実など、私たちが主から受けてきた様々な教えや溢れる恵みを皆様と分かち合わせていただければと思います。

■～つばめ便り～妻&母編

「主よ私を変えてください！」

桐山 壘&明日美

7歳で受洗するも、ダブルスタンダードに苦しみ、遂に高校でドロップアウト。10代の後半はひたすら暗闇の中、放蕩の限りを尽くしていたが、20歳で劇的に主の元に戻され、同時に出会った主人と結婚。夢と希望に満ちあふれた結婚生活やホームスクーリング…のはずが、古い性質を持ったままの自分では、到底上手く行くはずもなく…(泣)14年間のホームスクーリングを通して、夫や子ど

も達と向き合い葛藤する中で、神様は徹底的に私の中にある罪や弱さ、傷や囚われなどを露にされ取り扱い続けて下さっています。時に、絶望し負のスパイラルにはまる事も、諦めそうになる事も多々ありますが、その度になりふり構わずひたすら主の名を叫び求める事によって「栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられて行きます。」という御言葉が自分の内に成就するのを体験しています！まだまだ発展途上、欠けだらけの私ではありますが、これからもホームスクーリングという炉の中で、自分が溶かされ変えられてゆける事を思うと嬉しくてたまりません！今回は白馬を病欠してしまった私の証を、夫の証言も交えてお伝えします。【ダメダメ主婦の管理術(お金、時間、整理整頓etc)、夫婦>子ども、霊的戦い、ひたすら主の前に…etc.]

■「ホームスクールの知恵とこつ

— 10年で学んだこと」 竿代 健

長男が3歳の時に主夫となり、ホームスクールに取り組み始め11年目になりました。10年を振り返ってみて、成功や失敗も含め実践してきたこと、他のホームスクーラーとの交流から教えられたこと、子どもの成長や変化によって見えてきたことなど色々あります。ホームスクールを実践していく上での知恵やこつを項目ごとにまとめてみようと思います。項目ごとで、良きアイデアなど意見交流の場になれば理想と思います。項目は、多少変化するかもしれませんが、「学力」「教会」「ホームスクーラーとの交流」「経済」「学校」「体力」などを考えています。

■「チア・サポート・スクール(CSS)にご招待！」

稲葉寛夫・伊澤聡一郎&恵美

(大阪会場は稲葉寛夫)

CSSの目的はチアの3つの強い目的(「魂の救い」、「キリストの弟子の心を与える」、「伝道・世界宣教」)へのサポートです。勉学はその目的への一つの手段です。学習支援にとどまらず、日々の歩みや進路設計ほか、年々、子どもたち・家族とCSSスタッフが共に考えていく「絆」が強まって

います。個人的な支援やフォローの場として、日本のホームスクーリングムーブメントにおいて、新しい機能を発揮しています。

具体的には、スケジュールチェックと個別カウンセリング、英語多読、ネイティブ教師指導の英作文、体系数学、面接&小論文、受験対策などの取り組みが積み重ねられています。通学圏内の小中高生、全国の通信制（ファミラン）の小中高生の勉学のリズムを確立し、勉強の方法やわからないところを教えるサポート役として用いられ、良き成果が出ています。毎週のスケジュールを自分で組み立て、自分で立てたスケジュールを守る努力、その経験は将来役立ちます。勉学のサポートに加え、各家族の悩みの相談の場としても用いられています。CSSの詳細をお伝えしますので、どなたでも、お気軽においでください。

■「失われた神の栄光を取り戻せ！」

末宗 宣行&百合子

イザヤ 40:31「主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。」ただ救われて天国にさえ行ければよいという受け身の信仰生活ではなく、私たちは真実と偽りを見分け、鋭い視野をもって鷲のように羽ばたき、キリストの弟子として力強く歩むことが主の御心であると信じます。教会、親は、広い視野をもつ主の勇士を育てることのできる特権が委ねられています。これまでの経験を振り返ると共に、これから、どの領域で神の栄光を取り戻すことができるのかについて、スライド等を用いて分かち合います。

■「わが家はわが家、わが家なりのホームスクール」

竹橋 賢一&祐子

だめだめでも出来た。だめだめでも大丈夫。だめだめだからこそ神の助けがあった。一人一人神が個性を与えられたように、ひと家族ひと家族それぞれ違うと気づかせてもらった。今年で10年目になります。子どもたちに励まされたり、励ましたり共に祈り、泣いたり笑ったり一緒に過ごす日々は、（振り返ればその時は困難を覚える事もあるけれど）結局はなかなか良いものだなと思わせ

てもらっています。

■「神様のご計画とタイミングは完璧です」

田丸 暁規&明日香

妻がホームスクーリングの導きを受け、祈り始めたのは、約8年前。長女（現在13歳）が小学校へ入学する前の事でした。ノンクリスチャンだった夫は大反対。妻は「これはわが家への召しではなかった」と自分に言い聞かせて、子どもたちは公立の小学校へ通い始めました。ですが、神様はきちんとわが家にご計画を持っておられました。3年前に主人も救われ、コンベンションの参加をきっかけにホームスクーリングの道が開かれました。神様の憐れみで、現在ホームスクーリング3年目。失敗だらけのわが家の歩みと日々の取り組みをお話しします。

■「ステップアップするホームスクールⅣ」

大学入試の話

辻 寿&奈央子

1年生から2年間のチャーチスクール、その後10年間のホームスクールを経て、小学～高校過程の学習を終えた長女は今年大学進学へと導かれました。受験のサポートで成功したこと、失敗したこと、神様から語られたことを寿と奈央子で分かち合います。またホームスクールをしながらの受験の良かった点や大変だった点などを長女自身の証しも交えて分かち合いたいと願っています。

■「低年齢化する10代の性行動と親の任務」

辻岡 健象

神の形に創造され、神の栄光を現わす「いのちと性」が軽視され、性の秩序が完全に乱れてしまった時代に私たちが生きています。この大切ないのちと性のあり方、生き方を具体的に話し合い、学びたいと思います。

特に、現代の一般的な性教育と私たち性教育の違いを中心に、共に学び、共に話し合い、充実した時間を共に過ごし、解決策を求めていきたいと願っています。いのちと性に対する考え方や理解が多様化する中で、それでは如何に生きるべきか、

を共に話し合い学び解決策を求めていきたと思います。

彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を滅ぼさないためだ。(マラキ4:6)

■「子どもの個性に寄り添うホームスクーリング」
ツール ジェフリー&文絵

5人の子どもがいると、性格も5通りです。そんな子どもたちをどうやって一緒に教えていけばいいのでしょうか？これはホームスクーリングのチャレンジであり、強みでもあります。子どもたち一人一人の特性(ディスレクシア、LDの子もいます)や、学習スタイルを探り、受け入れ、そして実践へと移していく中での葛藤や経験を分かちあいます。

“Flexible homeschooling for a range of personalities”

Five kids means 5 different personalities. How do you teach kids together who are so different? This is the challenge and also the advantage of homeschooling. We will share our own experiences of how we have struggled to identify, accept and finally come to work with our children's various personalities and learning styles, including dyslexia and Learning disabilities.

■「那須家のホームスクーリング 15年で修了! ?
- 旅立ちの春、盛夏に向けて」

那須 清志&百合美

2004年4月より始まったホームスクーリングも15年で修了です。長男(26歳)は昨年よりビジネスマン、長女(24歳)は看護師4年目、次女(22歳)は今春からビジネスウーマン、次男(20歳)は大学2回生、三女(18歳)は今春から看護学生。というわけで、子どもたちはみな家を港にしつつ、訓練・学びの大海で航行中となりました。

15年間、ホームという同じ環境で学びつつも、教会や社会との関わりの中で多くのことを教えら

れてきました。いよいよ本格的に主からのお取り扱いを受け、主にある成人を目指して進んでほしいと願うばかりです。今回も一人ぐらいいは時間を捻出して参加し、レポートする予定です。誰が登場するかはお楽しみ…。

■「十人十色の大家族、
中島家のホームスクール〜続編〜」
中島 若樹&啓子

大学3回生(20)、新社会人(18)、高1(16)、中2(13)、小5(10)、小3(8)、幼児2人(5 & 3歳)の8人の子どもたちをホームスクールで育て14年目。この1年、専門学校に通いながら美容業界で日曜日に休める就職先を探す困難な道のりを歩んだ長女。そのチャレンジと恵みを中心に、バラエティーに富んだ年齢層と個性豊かな子どもたちのホームスクーリングの様子を分かち合います。

■『『ウソ』を教えてください
- 口先だけの謝罪について』
ピーター・ブロックソム

「ごめんなさい。」特に小さい子どもにとって、このことばは親や先生との関係を円滑に保ち、ひいては日々の幸せを守るための潤滑剤です。クリスチャン家庭、またクリスチャン教育においても、なにか問題が起きたとき、私たちは子どもたちに「良い子」として口先だけで謝ることを強制してしまいがちです。しかし、神様の心を持った子どもとは、表面的な謝罪によって得られる利益に関わらず、自分の過ちについて心から納得した上でしか謝らない子どものことではないのでしょうか。みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

Teaching our Children to Lie
- The Insincere Apology”

“I’ m sorry” is the magic phrase that can repair relationships, help one to avoid consequences, and set the world right again. As parents and teachers, we are almost “godlike”

to especially small children. We can make their day heavenly or make them wish they never got out of bed. It is greatly to their advantage that they keep on the right side of their parents for their well-being.

So, when there is an infraction, when the child does something wrong or something perceived to be wrong by the authorities, it is natural for the "unholy" child who is thinking of their own convenience to apologize, regardless of what he really feels inside. But the sensitive child, the child after God's heart, is the one that will not apologize unless they are convinced of their own trespass, regardless of personal gain or advantage that can be gained. And more often than not, Christian parents and Christian teachers are found at odds with the "holy" child, and try to pressure the child to utter the magic words, so that the world will be right again (at least superficially).

■「富士山にチャレンジ！」 藤井 一郎

10年連続登頂を目標に立て、今年で8回目の富士登山を前に、成功率を上げる為の登り方、必要な身体能力、トレーニング方法、装備などなどをお話しします。

■「若者をその行く道にふさわしく教育せよ」
～箴言 22 : 6～ 森山 剛 & 有佳子

長女の誕生と共に始めたホームスクーリングも18年目を迎えました。この数年は失敗とも思えることもあり、悔い改めながら主の導きを仰いで、子どもたちと様々な角度から将来に向けての取り組みをして来ています。今はまだその途中にありますが、ホームスクールの強い目的である"キリストの弟子となること" & "伝道していくこと" からぶれることなく、また、その為にゆるされる『荒野での主の訓練』から学んでいることをお分かちさせていただきます。質疑応答の時間も取りたいと思います。

■「山川哲平・真紀子ファミリーのチャーチ&ホームスクール」～従順教育の重要性と御言葉と祈りの生活～

山川 哲平 & 真紀子

現在、ハレルヤチャーチ高松では、5家族合計33人(11 + 7 + 6 + 6 + 3)がチャーチ&ホームスクール中(ほぼホームスクールベース)。また、それ以外にも、ご主人が未信者の家族もホームスクールマインドで教育をしています。現在、親と一緒に来ている子どもたちの信仰継承率は100%です。また、名古屋の弟ファミリー(9人家族)、妹ファミリー(7人家族)もホームスクール中。義理の妹家族(8人家族)も含めると一族でホームスクーラーです。13年前にシアにつぼんに出会ってから、あっという間に時間が過ぎました。まだまだ試行錯誤しながらですが、教会もホームスクールも「祈り、御言葉、礼拝」が中心になってきました。様々なホームスクールの形があってもいいと思いますが、私たち家族の証しや、どのようにホームスクールをしているか、特に「従順教育の重要性と、御言葉と祈りの生活によって、思春期の子どもたちの成長」を紹介します。「初代教会(ユダヤ人文化)から学ぶ家庭学習」なども。

